019　社殿　　**久能山東照宮　本殿・石の間・拝殿**　　江戸時代・元和 3 年(1617)

本殿;三間＊三間　入母屋造　銅瓦葺　前 1 間外陣・奥 1 間内陣

石の間;三間＊一間　両下造　銅瓦葺　床低く畳敷

拝殿;五間＊二間　入母屋造　正面千鳥破風　向拝三間　銅瓦葺

久能山東照宮は、元和2年（1616）4月に駿府城で死去した徳川家康を祀る霊廟として創建された。本殿・石の間・拝殿は、三棟を直線的に接続して一体化した、いわゆる権現造の形式をもつ複合社殿で、中井大和守正清によって計画され、元和 3 年末に正遷宮が行われた。

各棟とも、和様を基調とし、複雑な構成になる立面や軒廻りなどを巧みにまとめ、蟇股内部を花鳥の透彫とするなど細部も整った意匠をもち、軸部や軒廻りは黒漆塗、縁廻りは赤漆塗で仕上げ、要所に彫刻、かざり金具などを用いて荘厳化を図っている。いずれも極めて洗練された意匠をもつ権現造社殿であり、江戸幕府における造営組織の草創期において、その礎を築いた中井大和守正清の代表的な遺構の一つとして貴重であるとともに、江戸時代を通じて権現造社殿が全国的に普及する契機となった東照宮建築のうちの最初期の社殿として、わが国の建築史上深い意義を有している。

静岡市駿河区根古屋390　電話054（237）2438　FAX054（237）9456　http://www.toshogu.or.jp

しずてつジャストライン静岡日本平線「日本平」バス停下車（大駐車場）・ロープウェイで 5 分